令和四年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜　全日制の課程（追検査）

Ⅱ　国　語

注意事項

1　開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。

2　問題は **問五** まであり、1ページから14ページに印刷されています。

3　解答用紙の決められた欄に解答しなさい。

4　数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はっきり書き入れなさい。

5　マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ◯ の中を塗りつぶしなさい。

6　解答用紙にマス目（例：□）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。

7　終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受検番号
番

問一　次の問いに答えなさい。

(ア)　次のa～dの各文中の――線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

a　運動を奨励する。　（1　しょうかん　2　しょうりき　3　しょうれい　4　かんれい）

b　演奏を披露する。　（1　ひろう　2　とろう　3　とろ　4　はつろ）

c　滑稽な話を聞く。　（1　こっかく　2　こっけい　3　かっこん　4　かっさい）

d　幼い頃を顧みる。　（1　こころ　2　し　3　かえり　4　かんが）

(イ)　次のa～dの各文中の――線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

a　生地がシンシュクする服を着る。

1　試合のシュシンをつとめる。　2　山頂までもう一息のシンボウだ。

3　意向をダシンする。　4　ひざをクッシンする。

b　問題のカクシンにせまる。

1　歴史あるブッカクをたずねる。　2　組織のチュウカクをになう。

3　育てた野菜をシュウカクする。　4　新人選手をカクトクする。

c　仕事をユダンすることなくやりとげる。

1　食料品を貨物船でユソウする。　2　休み時間をユカイに過ごす。

3　すり傷がチユする。　4　地中からゲンユを採掘する。

d　風にサカらって走る。

1　劣勢からギャクテンする。　2　次の舞台のキャクホンを担当する。

3　従来のやり方からダッキャクする。　4　ザンギャクな行為を許さない。

(ウ)　次の短歌を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

（著作権上の都合により省略）

三好（みよし）　達治（たつじ）

1　波しぶきをあげて荒れる海に、旅を終えた鷗たちがなすすべもなく漂う光景を「春の岬」という語句で印象づけることによって、作者の心に残る旅の一場面を克明に描いている。

2　旅の目的地である春の岬に向かって飛んでくる鷗たちに自身の心を投影し、旅を終えた解放感に浸る作者の心情を、「旅のをはり」という語句を用いることで効果的に描いている。

3　春の岬を自由に飛び回っている鷗たちの姿に心を打たれ、自身も心赴くままに生きようと決意したときの作者の心境を、「浮きつつ」という語句を示すことで印象的に描いている。

4　旅を終えて羽を休めている鷗たちに自身の心を重ね合わせ、「遠くなりにけるかも」という語句を用いることによって、春の岬において作者が抱いた感慨を情緒的に描いている。

問二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

江戸の菓子職人「治兵衛」は、娘の「お永」と孫娘の「お君」とともに、麹町で「南星屋」を営んでいる。手首を痛めた「治兵衛」は、店を手伝ってもらうために、諸国を渡り歩く菓子職人の「雲平」を雇った。ある日、弟の「石海（五郎）」が菓子を買いに店を訪れたところで、「治兵衛」は「雲平」を雇ったことを伝えた。

（著作権上の都合により省略）

（著作権上の都合により省略）

（著作権上の都合により省略）

（西條（さいじょう）　奈加（なか）「亥子（いのこ）ころころ」から。一部表記を改めたところがある。）

（注）神田＝現在の東京都にある地名。
上方＝現在の京都府や大阪府を中心としたあたりの呼称。
旗本屋敷＝江戸時代、将軍直属の家臣である武士が住んだ家。
隠居＝役職から退いた人。またはその行為。
見罷った＝死去した。
吹き寄せ＝さまざまな色や形をした砂糖菓子を盛り合わせたもの。
暗澹＝暗い気持ちでいるさま。

(ア) ――線1「ようやく一難が去ったと思ったら、違う一難がやってきた。」とあるが、そうしたときの「治兵衛」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 将来が有望な菓子職人である「雲平」の働きで、店の苦境を乗り越えられたことに喜びを感じていたが、「雲平」を雇い続けることに「石海」が否定的であることがわかったため、思い悩んでいる。

2 けがで菓子を作れなくなり困っていたところ、「雲平」が自分の代わりとして店を営業し続けてくれたが、「石海」がどんな状況でも他人に頼るべきではないと怒り出したため、落ち込んでいる。

3 けがで思うように菓子を作れず困っていたときに腕のいい「雲平」が店に加わり、生活の見通しも立つと安心していたが、「雲平」を雇うことに「石海」が納得してくれず、気が休まらずにいる。

4 けがをしたために菓子を作れる人がいなくなったことによる店の苦境を、諸国を旅する菓子職人の「雲平」の助けで乗り越えられたはずだったが、「雲平」が盗人であるとわかり、動揺している。

(イ) ――線2「まるで仇のように、五種の型に抜いた砂糖菓子を睨みつけた。」とあるが、そうしたときの「石海」の気持ちを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 素性がわからない者を雇うことへの危うさを伝えているにもかかわらず、「治兵衛」が聞き入れてくれないだけでなく、皆も「雲平」を信じて疑わないことに、腹立たしさを覚えている。

2 「治兵衛」がけがをしている以上は、唯一の身内である自分が本来店を手伝うのが道理であるはずだが、皆が他人である「雲平」に店をまかせようとしていることに、不満を抱いている。

3 「雲平」が疑わしい人物であるという情報を信じていたが、「治兵衛」の話を聞くにつれてまったくの誤解であったとわかり、真偽が不明な情報をつかまされたことに、怒りを覚えている。

4 人の本性を見抜くことは、寺の住職として多くの人と関わる自分のほうが「治兵衛」よりもすぐれているはずだが、皆が「治兵衛」の見解を支持していることに、恨めしさを抱いている。

(ウ) ――線3「己でも知らぬ間に、目蓋が落ちていた。」とあるが、そのときの「治兵衛」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自分がいなくても商売がうまくいっていたため菓子作りの現場から離れて過ごすうちに、菓子作りに面白さを感じられなくなったばかりか、商売への意欲も失われてしまっていた。

2 自分の技量だけでやり過ごすことに慣れてしまっただけでなく、店も繁盛していたために思い上がってしまい、自らの力を高めようと外の世界に新しい刺激を求めなくなっていた。

3 多忙な毎日に振り回されて過ごすうちに、修業していたころに感じていた菓子作りの楽しさを忘れてしまっていたことに加え、他の職人たちと技を競い合おうとしなくなっていた。

4 菓子に流行を取り入れることが求められる江戸での商売に疲れてしまい、流行を気にせず自分が作りたいと思う菓子だけを作るうちに、菓子職人としての存在意義を見失っていた。

(エ) ――線4「その欲がむくむくわいてきて、てめえでも抑えきれねんだ。」とあるが、このときの「治兵衛」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 諸国を旅する中で菓子作りにおける独自の手法を完成させた「雲平」のように、自身も新たな技術を身につけ、世間から注目される菓子職人になりたいという欲求が湧き上がっている。

2 洗練された技を駆使する「雲平」の働きを見たことで、菓子職人としての自分を振り返り、若い職人と働くことを通して自ら考案した技に磨きをかけたいという決意を新たにしている。

3 新しい菓子作りの技を熟知している「雲平」を利用して、習得することが困難とされている技を自身も使いこなせるようになった上で、店の評判を高めていこうと野心を抱いている。

4 多彩な技を使いこなす「雲平」と一緒に働いたことで、菓子職人に対して思い描いていた理想の姿を思い出し、新しい技術を知るとともに技量も高めたいという衝動に駆られている。

(オ) ――線5「兄上がそこまで言うなら仕方ない、しばし静観してやるわ。」とあるが、ここでの「石海」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 けがをして落ち込んでいた「治兵衛」を心配していたが、偶然居合わせた「雲平」が元気づけてくれたとわかり、感謝をしつつも行動できなかった自分のふがいなさをかみしめるように読む。

2 「雲平」を信用できるかどうかはわからないが、職人としての情熱を取り戻した「治兵衛」の見違えたようすに安心し、固い意志を受け止めて今のところは見守ろうという思いを込めて読む。

3 家族に心配をかけたくないという「治兵衛」の思いは理解しつつも、信用ならない「雲平」を雇うことには納得できないため、裏切られても自分には関係ないということを強く示すように読む。

4 忠告をまったく聞き入れない「治兵衛」の態度に呆れたものの、家族として見捨てるわけにはいかず、「雲平」に対して心配していることが現実に起こらないでほしいという願いを込めて読む。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「雲平」との出会いを転機として、菓子職人としての生き方を振り返り、再出発を決意した「治兵衛」の思いを「石海」が受け止めていくさまを、効果的な心情表現によって生き生きと描いている。

2 菓子職人からの引退を転機として、「治兵衛」が自身の生き方を見つめ直し、自身の知り得る菓子作りの極意を「雲平」に伝授していくさまを、職人の専門的な用語を駆使して力強く描いている。

3 思うような菓子を作れなくなったことを転機として、「治兵衛」がやり方を見直し、「石海」を満足させるために努力を重ねていくさまを、江戸時代の言葉遣いを用いて臨場感豊かに描いている。

4 菓子の販売不振を転機として、「治兵衛」が新しい作り方を模索し、難局を乗り越えようと奮闘する姿が「雲平」や「石海」の心を揺り動かしていくさまを、会話を軸として印象的に描いている。

問三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（著作権上の都合により省略）

（著作権上の都合により省略）

（伊藤　徹「《時間》のかたち」から。一部表記を改めたところがある。）

（注）パースペクティヴ＝ここでは、物事に対する見方。
プリミティヴな＝そもそも備わっている感覚としての。
ウァルター・ベンヤミン＝ドイツの哲学者（一八九二～一九四〇）。

(ア) 本文中の［A］・［B］に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　A　ただし　　B　むしろ　　2　A　だから　　B　ところで
3　A　たとえば　　B　つまり　　4　A　けっして　　B　しかし

(イ) 本文中の〰〰線Ⅰの語の類義語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　瞬間的　　2　効率的　　3　例外的　　4　永続的

(ウ) 本文中の〰〰線Ⅱの「が」と同じ意味で用いられている「が」を含む文を、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　私は冷たい水が飲みたい。　　2　雨は降ってきたが風は穏やかだった。
3　我が家の自慢料理を紹介する。　　4　初心者だった私が今ではチームの中心選手だ。

(エ) ――線1「器は、もしそれが単独で展示されたら、欠損状態にあることを自ら示すだろう。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　器をはじめとした道具は、使用されることで初めて道具としての使い方が定まる性質があり、単独で置かれているだけでは、人は便利かどうかの判断ができず単なる置物と認識するから。
2　器をはじめとした道具は、時や場所を選ぶことなく多様な使い方ができる性質があるが、単独で置かれているときは、道具としての機能に優れていることを人に示すことができないから。
3　器をはじめとした道具は、他のものと結びつくことで初めて道具として存在することができるという性質があり、単独で置かれているときは、道具として存在しているとはいえないから。
4　器をはじめとした道具は、他のものと一緒に使用されることで使い勝手がよくなる性質があるが、単独で置かれているだけでは、道具を使い込む楽しみがないと人に見なされてしまうから。

(オ) ――線2「この関係は、個別使用者の意図だけに還元できるものではない。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　道具同士の多様な連関は人の使用目的に向けて作り上げられるが、使用者個人の意図だけではなく、文化的な背景に基づいた使用の道筋が反映されているということ。
2　道具同士の多様な連関は使用者個人の意図だけが重要なのではなく、多くの人々の使用目的を基に成立しており、道具の使い方が文化の中で縛られているということ。
3　道具同士の多様な連関は使用者個人の意図に左右されず、道具の使い方が文化の中では限定的であるからこそ、使用目的は伝統に基づいて制限されているということ。
4　道具同士の多様な連関は固定的ではなく、使用者個人の使用目的に応じて変えられるほか、文化的な価値基準に基づいた使用方法で決定づけられているということ。

(カ) ――線3「『所有』と呼ばれるこの関係だけが、道具との関わりではない。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 人と道具の関わりにおいては、道具を次の世代に受け継いでいくことが一般的とされているが、使い古されてきた道具を生活の場で使用するのは実用的ではないとも考えられるということ。

2 人と道具の関わりにおいては、道具は個人に所属すると一般的には捉えられているが、道具は世代を超えて使用される場合もあることから一方的な関係ではないとも考えられるということ。

3 人と道具の関わりにおいては、道具を使う主体は人であるということが一般的な捉え方だが、道具によって人の生活が変わる場合があることから道具が主体であるとも考えられるということ。

4 人と道具の関わりにおいては、個人の考え方で道具の利用価値が決まると一般的に捉えられているが、世代を超えて使用される歴史性が道具の利用価値を左右するとも考えられるということ。

(キ) ――線4「それはいわゆる『素材』のことだ。」とあるが、筆者は「素材」についてどのように述べているか。これを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「素材」は、ものを道具として見せるために用いられるだけでなく、作り手の情熱や道具を使い続けてきた人たちの思いまでも表現できる性質を持っている。

2 「素材」は、新鮮なうちに処理や加工をしなければ使えるようにならないものだが、廃材利用や繰り返しの使用には不向きであるという性質を持っている。

3 「素材」は、思い通りに形を変えられることから道具の価値を高めるために用いられるだけでなく、見た目をよくするために使えるという性質を持っている。

4 「素材」は、人が自分たちにとって有用性があるものを自然から利用しているものだが、道具を形づくり人に道具であることを感じさせる性質を持っている。

(ク) ――線5「そういう意味では、これに基づく経験は、むしろものとの一体化を拒みさえする。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「視覚」は、対象との間隔がなければ機能しない感覚であるため、「視覚」を基にした経験においては、人がものの欠陥を見つけ出すときにものと離れる必要性が出てきてしまうということ。

2 「視覚」は、人に備わっている感覚の中でも個人の意識に左右されるものであるため、「視覚」を基にした経験においては、鑑賞するときに見たいと思った対象しか視野に入らないということ。

3 「視覚」は、対象を自分ではない他のものとして認識する感覚であるため、「視覚」を基にした経験においては、人がものと関わるときに対象との間に隔たりを生じさせてしまうということ。

4 「視覚」は、人に備わった感覚の中でも表面的に知覚することに特化したものであるため、「視覚」を基にした経験においては、ものの内部構造を理解するときに全く役に立たないということ。

(ケ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 道具が使い捨てられている現状を通して人と道具の関係を整理するとともに、道具の扱い方について、客観的な資料を補って説得力を持たせながら述べている。

2 様々な例を示して人と道具の関係を考察するとともに、人と道具が一体となるときの感覚的な経験について、道具を軸とした関係性を追究しながら述べている。

3 様々な人の体験を基に人と道具の関係を把握するとともに、道具が人間社会に及ぼした影響について、道具の機能の移り変わりを明らかにしながら述べている。

4 人を取り巻く環境の変化から人と道具の関係を考えるとともに、人が道具を所有する際の心構えについて、道具が経てきた歴史を振り返りながら述べている。

問四　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注)備中国英賀郡水田と言ふところに、代々国重と名乗る刀鍛冶あり。その代々の中に分けて誉れ高きは、大月与五郎国重なり。

この与五郎いまだ幼かりし頃、ある日父の八郎左衛門、与五郎に向かひ「汝よく聞けよ、いづれの道も同じこととは言ひながら、分けて我が家の[1]鍛冶の道は、親の伝へ、師の教へのみ守りては上手にはなりがたきものなり。さればこそ近頃世に名高き関(注)孫六は、その始め何とぞいまだ世の鍛冶の打ち出ださざる(注)焼刃を焼きて世に名を知らればやと常に工夫し居たりしに、ある時その妻衣を洗ひ干したる竿に村雨の降り来て、その雨だれの竿よりとくとく流れ落つるを見てこれこそはと思ひ、すなはちそれに似せて焼きたりしが殊にめづらしき焼きゆゑ、これより孫六が三本杉の焼きとて世には称せられぬ。」と語りければ、[2]与五郎せせら笑ひ、「さればこそ世の人孫六を上手なりと称すれども、その打ちし刀を見るにさらにとるところもなき作と思ひしが、果たして今の御物語を承るに、その目のつけどころが悪しきゆゑなりし。」と言ふ。父叱りて、「汝いまだ口のはたの黄なるに、上手の父をそしることやある。」と言ふに、与五郎答へけるは、「すべて物を似せるに何ごともその手本ほどにはできぬものなり。されば、その手本こそは肝要なれ。我このほど夜な夜な空を見るに、およそ銀河ほどさえたるものはなし。よて我は銀河に似せて焼かんと思ふ。」と言ひければ、父、大に感じて「[3]我が家をおこすべきものは必ずこの児なり。」と言ひしが、げにも成長の後は、群をぬきんでたる名人となれり。

後、この与五郎国重が銘をすり落とし、正宗と切るよし、与五郎聞きて、「我、今正宗となど敷きせらるること面目あるに似たれども、数百歳の後にはつひに正宗にまさらんものを。」とて、磨き落とされぬやうに銘を深く切りしとなむ。

（「寝ざめの友」から。）

（注）備中国英賀郡水田＝現在の岡山県の地名。
関孫六＝室町時代に活躍した刀鍛冶。
焼刃＝刃の表面に焼きつけられた模様。
正宗＝鎌倉時代の名工。または、名刀。

(ア) ――線1「鍛冶の道は、親の伝へ、師の教へのみ守りては上手にはなりがたきものなり。」とあるが、「八郎左衛門」がそのように考える理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 きっかけをつかみ有名な鍛冶師になった「関孫六」のように、素晴らしい刀を作れるようになるためには思案し試行を重ねることが必要だから。

2 時流に乗った刀を作ることで知られた「関孫六」のように、有名な鍛冶師になるためには流行を取り入れた刀作りを心がけることが大切だから。

3 唯一無二の刀を作った「関孫六」のように、誰もが認める素晴らしい作品を作るには身近なものから手がかりを見つけ出すことが近道だから。

4 鍛冶における常識を破ることで独特な刀を作った「関孫六」のように、鍛冶の歴史を変えるためには自由な発想で刀を作ることが重要だから。

(イ) ――線2「与五郎せせら笑ひ」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「関孫六」が評価を高めるために不正をしたのではないかと疑念を抱いていたところ、「八郎左衛門」の話を聞いて思っていた通りだとわかったから。

2 「関孫六」の鍛冶の技を一度は見てみたいと思っていたが、「八郎左衛門」の話を聞いて世間で評価されるほどには技量は高くないことがわかったから。

3 「関孫六」の作品には特徴がないと思っていたところ、「八郎左衛門」の話を聞いて参考にしたものを見えた通りに再現しただけであると気づいたから。

4 「関孫六」の作品を見たときに高い評価を得るほどのものではないと思っていたが、「八郎左衛門」の話を聞いて着眼点が良くないことに気づいたから。

(ウ) ――線3「我が家をおこすべきものは必ずこの児なり。」とあるが、「八郎左衛門」がそのように言った理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 多くの鍛冶師が辞めていく中にあっても、「与五郎」が家を存続させていくことを約束してくれたことに感激し、強い意志を示してくれた「与五郎」を誇らしく感じたから。

2 修練が足りない「与五郎」を、立派な鍛冶師として育て上げなければならないと考え、受け継がれてきた技術を少しずつでも「与五郎」に引き継がせようと決意したから。

3 壮大なものを手本にして刀を作ると宣言した「与五郎」を見て、きっと偉大なことを成し遂げるに違いないと考え、「与五郎」は国重の名を高めていく人物だと思ったから。

4 普段から身近にある自然の観察を怠らない「与五郎」は勤勉だと判断し、国重の名を受け継がなくても、「与五郎」が伝統と真摯に向き合っていける人物だと確信したから。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「与五郎」は、「正宗」と銘が刻まれた作者の異なる刀が沢山あることから、数百年後には自分の作品であるかわからなくなることを不安に思い、特殊な細工を施して刀に銘を刻み込んだ。

2 「与五郎」は、「正宗」と同じくらい傑出した鍛冶師として評価されていることを誇らしく思いつつも、数百年後には自分が作った刀の方が高く評価されるはずだとして、銘を刻み込んだ。

3 「与五郎」は、代々続く伝統を捨てて「正宗」と銘を変更し、時代の変化によって自分の作品が失われないようにするため、自身の銘を他の者が使うことを禁止した上で銘を刻み込んだ。

4 「与五郎」は、数百年後に自身よりすぐれた鍛冶師が現れたときに、国重が作った刀には価値がないと見なすことがないようにしようと、刀に名刀の印である「正宗」の銘を刻み込んだ。

問五　中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」で「シェアリングサービス」について調べ、発表に向けて話し合いをしている。次の**グラフ1**、**資料**、**グラフ2**と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ1

（著作権上の都合により省略）

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団「わが国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移」国土交通省「数字で見る自動車 2021」より作成。

Aさん　私たちは、何かを共有したり貸し借りしたりするシェアリングサービスについて調べてきました。シェアリングサービスの利用状況はどうなっているのでしょうか。

Bさん　私は代表的な例として、カーシェアリングに注目し、国内における自動車の保有状況についてもあわせて調べました。ここで**グラフ1**を見てください。これは、カーシェアリングの会員数と、国に登録されている乗用車数と軽自動車数をそれぞれ示したものです。これを見ると、［　　］ことがわかります。

Cさん　そうですね。自分のものであれば自由に使用できるメリットがあるのに、カーシェアリングに代表されるシェアリングサービスがここまで広まった背景には、どのようなことがあるのでしょうか。

資料

（著作権上の都合により省略）

（望月（もちづき）　智之（ともゆき）「二〇二五年、人は『買い物』をしなくなる」から。一部表記を改めたところがある。）

グラフ2

（著作権上の都合により省略）

野村総合研究所「生活者１万人アンケート調査（2018年）」より作成。

Dさん　そのことを考えるために、私は、ものを所有することに対する人々の考え方の変化について調べました。ここで**資料**を見てください。これを読むと、以前は高価なものを所有することが一種のステータス、つまり社会的な地位を示していたことがわかります。

Bさん　高価なものを所有することは、幸福度が高いとされていたのですね。それに対して今は、ものを所有し、管理することの手間をなくしたい人や、ものにかかる費用を減らしたいと考える人が増えており、高価なものを所有することだけに価値を見出せない時代であると書かれています。ものを所有すること自体がリスクであったりコストがかかったりすることだと捉える人が多いということですね。

Aさん　まさに、人々の所有に対する考え方が様変わりしたのですね。高価なものに魅力を感じない人が増えた今、人々はどのようなことに幸福を感じるようになったのでしょうか。

Cさん　私は、人々が生活において重視していることについて調べました。ここで、理想の暮らしに関するアンケート調査の結果をもとに作成した、**グラフ2**を見てください。やはり、高価なものを所有することに魅力を感じる人の割合が低いことがわかります。

Dさん　これを見ると、快適な生活や趣味などを大切にしている人の割合が高いことがわかりますね。また、快適な生活や趣味以外に、人間関係を重視することやシンプルな生活に魅力を感じる人の割合も三割程度あります。このことから考えると、生活において重視したり魅力を感じたりすることは人によって様々だと言えそうです。

Bさん　なるほど。今は、暮らしの中で大切にしていることが多様化してきているのですね。

Aさん　それでは、話し合いの内容をまとめましょう。**資料**と**グラフ2**から考えると、シェアリングサービスの広まりには、人々の幸福に対する考え方が［　　］ことが背景にあると考えられます。

Dさん　シェアリングサービスには、カーシェアリングの他にどのようなサービスがあるのかも調べたいですね。

Cさん　そうですね。また、シェアリングサービスが広まったことによって生じている問題や課題なども調べた上で、発表ができればいいと思います。

(ア)　本文中の［　　］に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　二〇一四年は、二〇一七年と比べて、カーシェアリング会員数が三分の一以下である
2　二〇一七年は、二〇一一年と比べて、軽自動車数が約二倍になっている
3　二〇二〇年は、二〇〇八年と比べて、カーシェアリング会員数が二百万人以上増えている
4　二〇二〇年は、二〇一一年と比べて、乗用車数と軽自動車数がともに減っている

(イ)　本文中の［　　］に適する「Aさん」のことばを、次の①～④の条件を満たして書きなさい。

① 書き出しの［シェアリングサービスの広まりには、人々の幸福に対する考え方が］という語句に続けて書き、文末の［ことが背景にあると考えられます。］という語句につながる**一文**となるように書くこと。
② 書き出しと文末の語句の間の文字数が**三十字以上四十字以内**となるように書くこと。
③ **資料**と**グラフ2**から読み取った具体的な内容に触れていること。
④ 「所有」という語句を、そのまま用いること。

（問題は、これで終わりです。）

国
S